

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

十勝管内 更別村立上更別小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、地域の歴史や文化等について調べる学習を位置付けるとともに、アイヌ民族文化財団や帯広百年記念館の活用を通じた課題設定、情報収集の工夫を通じて、アイヌの人たちの歴史・文化等について探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

帯広百年記念館を活用し、実際にアイヌの人たちが使用していた物を見たり、学芸員の説明を聞いたりすることを通じて、学習意欲を喚起し、「アイヌの人たちの歴史・文化等を新聞にまとめ、紹介しよう」という学習課題を設定しました。

(2) 情報の収集

児童一人一人が「生活様式」「言葉」「アイヌ文様」などのアイヌ文化に関するテーマを設定し、アイヌ民族文化財団から借用した「アイヌ文化学習トランク」を活用して、調べ学習を行いました。施設見学の後に「アイヌ文化学習トランク」を活用して調べ学習を行ったことで、児童は、それぞれの興味に合ったものを実際に手に取ったり、着用したりしながら、特徴を見出し課題解決に取り組みました。また、アイヌ民族文化財団の講師を招聘し、アイヌの人たちの歴史・文化等に関する講話とアイヌ文様の刺繍を体験し、課題解決に取り組みました。

(3) 整理・分析

調べ学習や講話、体験的な活動などの情報から、「個々のアイヌ文様のもつ名前と意味」や「アイヌの人たちの作った船のつくり」などについて理解し、アイヌの人たちの文化と地域との関わりについて整理・分析しました。

(4) まとめ・表現

学習の成果として、「生活様式」「言葉」「アイヌ文様」など、自らが設定したテーマに基づく「アイヌ文化新聞」にまとめ、校内に掲示するとともに、学んだことを保護者に向けて発表しました。児童は、北海道の他地域におけるアイヌの人たちの生活について、新たな疑問や課題等を見出していました。



【帯広百年記念館見学の様子】



【アイヌ文様の刺繍体験の様子】



【学習の成果「新聞」】

②児童の感想等

- ・イタオマチブ（板綴り船）の作り方等をさらに調べ、この船を作りたいと思いました。
- ・アイヌ文様には色々な文様があり、それぞれに名前と意味があることを知って驚きました。もっと歴史を知りたくなりました。
- ・チヂリという縫い方が難しかったけど、段々できるようになって嬉しかったです。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 児童一人一人の探究的な課題意識を大切にしたい学びのプロセスに体験活動を位置付けたことにより、学習後のアンケート調査では、「アイヌの人たちの歴史・文化等についてもっと調べたいと思う」と回答した児童の割合が75%から100%に、「北海道や自分達の住んでいる地域は、好き」と回答した児童の割合が75%から100%にそれぞれ増加しました。
- アイヌの人たちの歴史・文化等に関する系統的な指導の充実に向けて、総合的な学習の時間と各教科等との関連を図った教育課程を編成する必要があります。